

授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 藤井 俊之					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 前期	曜時限	火1	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	独書講読 I										
【授業の概要・目的】											
Peter Michelsen: Entgrenzung. Die englische Literatur im Spiegel der deutschen im 18. Jahrhundert. In: Der unruhige Buerger(1990)を読む。											
<p>現代への転換点として、ヨーロッパ史上18世紀は重要な意味をもつ。フランス革命をその帰結とする大規模な社会形式の移行期において、ドイツもまたその文化に物質的と精神的の両面にわたって大きな変容を被った。その際、当時後進国であったドイツの人々の意識形成にとって、外国文学の受容は決定的な意味をもつものであった。19世紀以降、ある意味では自国の伝統に充足できるようになるドイツ文化が、自らの足場を固めようとするこの世紀においていかにして自己を作り上げたのか。こうした問題意識をもって、授業では、上に掲げたミヒェルゼンの論文を講読する。ヨーロッパ文学が共通理解を担保するものとしてのラテン語の伝統にまだまだ属しながら、それと並行して各国語で著されるようになるこの時期に潜在的な「世界文学」の実現を見るミヒェルゼンの議論を参照することで、ヨーロッパにおけるドイツの特異性(ナショナリズム)と普遍性(世界性)について考えたい。</p>											
【到達目標】											
必要分野での文献を読み解けるドイツ語の読解能力を養う。また、文献に現れる引用の読解を通じて、テキストの背景となる歴史的事象を考慮することを学ぶ。											
【授業計画と内容】											
第一回目にイントロダクションを置いて、その後の授業はテキストの訳読を中心に進める。その際に、全員が一度は担当を持つようにする。授業は15回全てを読解にあて、最後に、全体の総括として期末にレポートを課す。											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点と期末レポートで採点する。授業の際には各自が必ず訳読を担当することが求められる。それを踏まえて、期末レポートで各自の理解を測りたい。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 西洋史学(講読)(2)へ続く -----											

西洋史学(講読)(2)

[参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業に備えて予め文献のドイツ語の予習をすることが必要である。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。